

社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は社会福祉法人制度改革完全施行の年度であり、改正法の柱である1. 経営組織のガバナンスの強化、2. 事業運営の透明性の向上、3. 財務規律の強化、4. 地域における公益的な取組、について積極的に取り組むとともに、法人創立55年、寿楽荘設立50周年、琴清苑設立40周年の節目の年度であり記念式典の開催、記念誌の発行を行いました。公益的な取組にあたる配食サービス、送迎事業については伸び悩んでいるものの継続して事業の展開を図って行きたいと考えています。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で95.9%、琴清苑で96.3%、短期入所事業では寿楽荘113.2%、琴清苑80.2%という結果であり、前年比入所稼働率は、寿楽荘は若干の上昇、琴清苑では減少数値となりました。入所については概ね計画通りの実績を残せたものの、入所待機者の著しい減少、要介護度の制約等課題となっています。しかし、稼働率の変動はそのまま事業活動の結果に直結するものであり、これからも年間を通じ高い数値を維持できるよう努めて行きます。また、各種加算請求体制が整ったことから昨年を上回る決算とすることができました。また、看護・介護職の人材難が深刻であり、知恵をしぼり雇用対策の強化を図っているところです。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果が徐々に出てきている傾向が見え、上向きの決算状況となっています。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、寿楽荘の常勤医師が年度途中で退職し、後任の医師確保に苦慮している状況が続いています。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ体制強化を図って行きます。

ともあれ各施設において、法人の理念である「心の福祉」の周知に努め、社会貢献事業の充実・強化、職員処遇改善・育成、再雇用制度の充実に取り組み厳しいながらも安定した運営に努めました。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度も経営基盤の安定を目指し努力してまいりましたが、入院患者様が181名の減少、対前年比92.9%、一般の入外来患者様も122名の減少、対前年比95.5%となりました。減少の原因につきましては、地域住民の高齢化及び人口の減少等が考えられます。

医師の変動に関しましては、2月末を持って寿楽荘の配置医師が退職され、常勤医師が1名となり、片倉医師には益々ご負担をお掛けする結果になりました。今後、医師の確保が重要課題です。

看護職員（看護師）に関しましては、正職員の看護師が昨年7月よりパート契約を希望した為、8月の1ヵ月間は施設基準を満たすことができず減収となりましたが、9月はパート契約の看護職員等の協力で施設基準を回復、10月に准看護師と雇用契約を結ぶことができ、常勤換算1.7名体制となりましたが、2月末1名退職し現在は常勤換算1.3名の体制です。

奥多摩町からの委託業務である特定健診につきましては、過去最高の147名の方に様々な健診をお受け頂きました。

同じく町からの委託業務であります各種予防接種につきましては堅調に推移しました。

医療機器等の購入に関しまして、今年度は高価な医療機器等は購入せず、入院患者様のニーズにあわせ自走式車いすを2台購入致しました。

医療機器等に関しましては、医療スタッフの求めに応じ順次導入してゆく所存です。

最後になりますが、医師、看護、介護職員の努力により、各種の感染症を、施設、診療所共に最小限に抑えられたことをご報告申し上げます。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

社会福祉法人制度改革の完全施行により更なるガバナンス強化が求められた1年でしたが、直面する課題に関しては一定の整備を行なうことが出来た。

また、役職員・関係各位の協力により寿楽荘設立50周年記念式典も滞りなく開催出来たことで職員内・間の結束を一段と高めることが出来た。

介護人材難は依然として続いている。紙媒体のほか学校やSNSの活用、職員による口コミでの求人活動を継続し現場職員の業務負担軽減に結び付けたい。

入所申込者の確保に関しては、「西多摩特養ガイド」への加入により入所相談は増加傾向にあるが入所に至るケースは僅かであり、区部ほか人口密集地のケアマネージャー等へ更なる働きかけが必要と思われる。

利用者に関しては平均要介護度が4.1となった状況で稼働率が95.9%を残せたのは、各職種内・間及び委員会等で円滑な業務遂行ができた結果と捉えている。今後、介護報酬各種加算請求に結び付けて収入確保に努めたい。

職員に関しては、介護福祉士合格者1名、痰吸引資格者、認知症研修受講者、キャリア段位レベル認定者など、個人面談時の本人希望のほか施設の長期的展望に沿った職員育成も計画的に行えた。

給食事業は介護人材と同様に慢性的な人手不足ではあるが、多職種協働で着実に整備が進んでいる。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

平成29年度は開設40周年を迎え、法人の計画である全面改築が少しずつ進行してまいりました。次年度に向けて資金問題をクリアしつつ、早い時期に東京都と事前協議が行える様に奥多摩町と協議を重ね、次年度に具体的な行動が取れる様に計画を進めてまいりました。

施設利用率は96.3%と前年より1.3%ダウンしました。入所待機者の減少があり、退所から入所までの期間が長くなった影響が多く出た結果と言えます。ショートステイ利用率は80.2%と36.4%の大幅なアップが見られました。これはロングの利用者が多かったことが要因として挙げられます。利用率の低下は西多摩地域全体の利用者減少によるため、次年度以降も課題となっております。

安定した計画的な経営につきましては、経費の削減を行い、事業を続けてまいりました。さらなる努力を次年度以降も継続してまいります。

直営方式に変更しました給食サービスも人材を確保し、少しずつ安定した運営を行える様になりました。今後も引き続きより良いサービスが提供していただける様に努力してまいります。

介護福祉士やキャリア段位につきましても新たな資格取得者が誕生しています。今後も資質が向上していただける様に体制を確立してまいります。

介護人材難は福祉業界全体の問題であり、当施設にも起きております。人がいて成り立つ業務ですので次年度以降も、安定して運営が出来る様に人材確保につとめる等の対策をとる所存であります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

平成 29 年度も、職員のキャリアアップを目指し保育に取り組みました。年齢別発達状況・健康管理・食育・職員研修の各項目に沿って保育リーダーを中心に、クラスの目標達成度について話し合いながら保育を進め、一人ひとりの子ども達の発達や成長を全職員で共有しながら保育に取り組みました。結果として年度始めに目標を明確にして取り組むことで、自分の成長を実感できる機会となり、モチベーションの向上にもつながってきているので、今後も継続し実施してまいります。

運営状況では、児童処遇・職員処遇とも事業計画に沿った活動を実施し予算の執行に努めることができました。施設整備では、園舎裏の駐車場を支える鉄骨下地の老朽化に伴い、改修工事を実施することが出来ました。

今年度も 3 歳未満児の割合が全園児の 40%を占め、安全対策や生活環境に配慮しながら保育に取り組んできました。30 年度も奥多摩町の子ども子育て推進事業により、低年児の増加が見込まれるので、保育士の確保が喫緊の課題となります。